

さめがわ村

No
153

平成30年8月

みんなの議会だより

題字：鮫川小学校

4年 金澤 琴海さん

げんきに
そだってねえ～！
(子どもセンター園児 ヤマメの放流)

6月定例会

放課後児童クラブ条例改正 見渡住宅分譲地造成工事

- 6月定例会、議案調査 …… 2～5
- 一般質問に5議員登壇 …… 6～11
- 研修レポート(下條村) …… 12～13
- 検証!どうなったっぺあの一般質問 … 14
- 村民の広場 …………… 15
- ふるさと鮫川への想い …………… 16

将来のために の充実強化

6月
定例会



ここに
注目!!

鯨川中体育館屋外トイレ・鯨川小防火シャッターなど
3012万円の補正案を提出



大 樂 勝 弘 村 長

6月定例会の
あらまし

6月定例会が6月6日から8日までの3日間の会期で開催されました。

第1日目に、一般質問を行い5名の議員が登壇し、介護や福祉、教育分野では県立修明高校鯨川校についての質問などを取り上げ、村政をたどしました。また、報告2件の後、条例等の一部改正及び平成30年度補正予算2件の専決処分を承認しました。条例の改正は放課後児童健全育成事業条例の一部改正を含む2件、平成30年度補正予算

4件の提案説明がありました。

第2日目に、総務文教常任委員会と産業厚生常任委員会の合同議案調査を開き、議案を審議しました。

最終日に、審議した条例、補正予算を原案のとおり可決し、陳情1件を採択しました。議員発議を日程に追加した意見書の提出1件を可決し、閉会中の継続調査を許可して、閉会しました。

専決処分

◆村税条例の一部改正

地方税法の一部を改正する法律等関係法令が、平成30年3月31日に公布、4月1日施行するに伴い、個人住民税の基礎控除額の見直しや地方のたばこ税の税率の引き上げ等の見直しにより村税条例の一部を改正しました。

◆平成30年度

一般会計補正予算(第1号)

地域創生総合支援事業の採択により、歳入財源の県支出金を確保し、本村の誇れるきれいな星空が見れる天文台の運営を担う人材育成のインストラクター養成講座事業や村内の景勝地や公共施設等の草刈りを早期に実施するための里山景観形成実践事業など792万5千円を専決処分しました。

平成30年度 補正予算

子どもたちの 教育施設



6月定例補正予算の状況

会 計 別	補 正 額	補正後の予算額
一 般 会 計	3034万6千円増	29億3127万1千円
特 別 会 計	国保 事業勘定	52万2千円減
	簡易水道事業	0
	学 校 給 食	30万円増
合 計	3012万4千円増	35億7626万4千円

6月定例補正予算の主な事業

歳 出		歳 入	
光ファイバケーブル支障移転工事費	599万3千円	過疎地域等自立活性化推進交付金	1768万円
特産品育成事業費	238万円	ふるさとづくり基金繰入金	190万円
林道舗装工事費	110万円	公有施設整備基金繰入金	310万円
分譲地造成工事費	1629万円	教育施設整備基金繰入金	420万円
消防団金ばれん受賞記念事業費	260万4千円	光ファイバケーブル支障移転補償費	759万円
小学校防火シャッター修繕工事費	108万3千円		
中学校体育館屋外トイレ改修工事費	322万1千円		
体育施設維持補修工事費	320万円		

報告がありました

繰越明許費繰越計算書について

一般会計の携帯電話等エリア整備事業やふくしま森林再生事業ほか6事業。

白河地方土地開発公社の経営状況について

村が出資している白河地方土地開発公社の平成29年事業年度の経営状況について、議会に説明資料が提出されました。

条例改正をしました

鮫川村放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正

放課後児童支援員の基礎資格等について、一定の実務経験が有り、村長が適当と認めた者や、有効な教員免許を取得した者を対象とする規定に改正するもの。

国民健康保険税条例の一部改正

国民健康保険税の被保険者に係る所得割額、均等割額、平等割額等の算出の基となる税率等を改正するもの。

陳情を可決しました

臓器移植の環境整備を求める意見書の採択を求める陳情について

◆陳情者 移植ソートリズムを考える会

◆附 託 産業厚生常任委員会

◆審査の結果 採択

◆本会 議 全員賛成で可決

提出議案を徹底調査!!

聴く調べる判断する

議案
調査



担当課より説明を受ける各常任委員会

6月定例議会において村から提出された
条例案、補正予算案、陳情について担当課
に説明を求める等、議案調査を行いました。

産業厚生 常任委員会

- 問** 公有財産購入費は
答 村道水口大沢線道路
改良に伴う用地買収
費は
- 問** 定住対策工事請負費は
答 見渡住宅分譲地造成
工事費

- 問** さざり荘の備品購入
費は
答 防犯カメラ設置費
- 問** 観光客動向調査業務
費は
答 春まつり観光客の動向
調査編集

問 手まめ館の備品購入費は

答 味噌こし器、防犯カメラ設置費

- 問** ふるさとづくり寄付
金は
答 故須藤英一氏宅売却
費を全額村へ寄付
- 問** 光ファイバーケーブル
移転補償金収入は
答 国道289号関下地内
の電柱移転にともなう
県からの支出金

- 問** 小学校施設整備は
答 鮫川小の防火シャッ
ター工事費
- 問** 中学校施設改修工事は
答 鮫川中の体育館屋外
トイレの改修費用

総務文教 常任委員会

- 問** 消防「金ばれん受賞広告料」は
答 福島民報の新聞広告料



手まめ館の味噌こし器



鮫川中体育館の屋外トイレ



鮫川小の防火シャッター

一般会計 補正 予算

平成30年度一般会計予算額29億92万5千円に対して3034万6千円を増額し、総額29億3127万1千円とし全議員が原案通り可決承認しました。

ここに注目!

見渡住宅分譲地造成工事費_他を承認

(旧泰斗工場跡地)



反田住宅整備事業工事(富田地内)

120万円



見渡住宅分譲地造成工事

当初予算3000万円に追加して

1629万円補正



青少年広場法面補修工事

139万円



西山体育館屋根葺替工事

180万円

※ 上記の他に、林道東前田線舗装工事に110万円、さざり荘防犯カメラ設置に44万円他を承認しました。

議員5人が登壇ズバリ!! 村政を問う!



(鈴木 和花さん)

北條 利雄 議員

P 7

- ① 高齢者のICT活用を学ぶ機会
- ② 介護人材確保・定着・育成
- ③ 認定こども園の幼稚園教育と小学校教育の接続



(鈴木 大稀さん)

遠藤 貴人 議員

P10

- ① これからの県立修明高 鮫川校



(芳賀 七海さん)

宗田 雅之 議員

P 8

- ① 搬送システムの現状と対策
- ② シェアハウスの設置の考え方



(高木 瑛飛さん)

前田 武久 議員

P11

- ① 交付金制度の創設



(佐藤 楓峨さん)

関根 政雄 議員

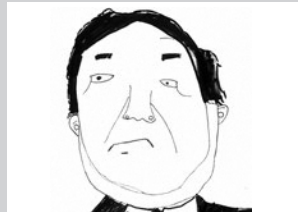
P 9

- ① 鹿角平観光牧場の環境整備とクロカンコースの有効活用
- ② 産業の担い手育成と奨学金制度の見直し
- ③ 小規模災害箇所への対応策



一生懸命描きました!!

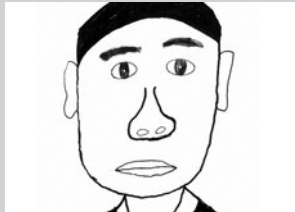
出席議員



堀川 照夫 議員
(江田 果帆さん)



関根 英也 議員
(関根 心桜さん)



前田 雅秀 議員
(澤口 夏芽さん)

にが絵は鮫川小学校の
元気な3年生に
描いていただきました

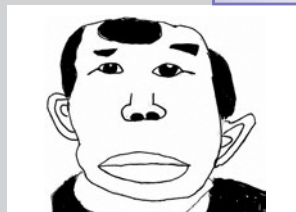
※ 定例議会にはこのほかに
各課長5名が出席しています。

議会の進行



星 一彌 議長
(石井 憲成さん)

答弁者



大樂 勝弘 村長
(岡部 莉久さん)



奥 貫 洋 教育長
(中川西 温基さん)

出席者



白坂 利幸 副村長
(泉田 悠愛さん)



北條 利雄 議員

福祉行政

問

介護人材の確保・定着・育成の取り組みを伺う

答

安定した運営ができるよう 必要な支援を行う

質問

高齢化率は今後も上昇が見込まれ、介護需要の拡大が想定される。介護事業所等では人材が「足りない」「集まらない」、職員の「離職が多い」「高齢化している」という声と深刻さがある。介護職員のスキルアップや働きやすい環境づくり促進のため、取り組みに関する情報の提供とともに、不足する介護人材の確保では、人材の新規参入を促す「確保」、介護職に就いた人材が長く働けるよう支援する「定着」、そして介護人材の質の向上を図る「育成」の総合的な取り組みが重要である。これらの取り組みを伺う。

答弁(村長)

介護分野での、仕事の大切さ、意欲や使命感の喚起など、職場に魅力を持つてもらえる教育が必要。人材の定着では、働きやすい環境づくり、キャリアアップ研修に必要な経費の助成を検討する。人材

質問

の育成では、外部研修もあるが、事業者間で人事交流するなど、質の高いサービスの供給に努める。介護事業所は人材の確保や定着のため、これまで以上の努力が求められている。介護保険制度を支える介護事業所が安定した運営ができるよう必要な支援を行っていく。



利用度が高まる高齢者介護事業

問 高齢者がICT(情報・通信)に関する技術の総称)の活用を学ぶ機会を伺う

答 ICTの安全な活用法を学ぶ機会の提供を検討する

質問

の実現に必要な、自助、互助、共助、公助の取り組みの中で、自分のことは自分でする自助のツールとして、ICT機器を活用したい学びたい人に対しては、ICTの安全な活用法を学ぶ機会の提供を検討する。

問 幼稚園教育と小学校教育との接続を伺う

答 スムーズであるが、満足はしていないので今後も継続する

質問

認定こども園は、子育て家庭に新たな選択肢が広がった。幼稚園教育と小学校教育との接続では、課題もある。

幼稚園の機能を発揮して、幼児の実態等を踏まえた最も適切な教育課程を編成し、改善や充実を図ることが重要。接続に関して①「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」②「幼児の姿や就学後の状況、家庭や地

答弁(教育長)

幼稚園と、小中学校との繋がりで、他市町村より極めて上手くいつていると感じる。学力向上会議の中でも、小学校・幼稚園の授業を一緒に見せ合い、悩み事、あるいは効果的な方法を協議している。健康づくり、生活リズム、食事指導、言葉や言語、子育て環境づくりなどもスムーズであるが、満足はしていない。今後も継続する。

※PDCAサイクルとは、Plan(計画)→Do(実行)→Check(評価)→Act(改善)の4段階を繰り返すことにより、業務を継続的に改善すること。

※PDCAサイクルとは、Plan(計画)→Do(実行)→Check(評価)→Act(改善)の4段階を繰り返すことにより、業務を継続的に改善すること。

次のページは

一般質問

宗田雅之議員・関根政雄議員

問 緊急搬送時の対応を伺う

答 医療体制の充実を図っていく

宗田 雅之 議員



緊急搬送で活躍するドクターヘリ

質問

医療機関から遠距離にある本村にとって、緊急搬送に掛かる時間は生死に係わる問題である。現在、搬送に至るまでの時間が掛かり過ぎるのではとの声を多く聞くが、受け入れる病院の問題な

のか、搬送する機関のシステムの関係なのか伺う。

答弁(村長)

搬送先の病院の確保に相当の時間を費やしているのが現状である。現況を少しでも改善するように、医療体制の充

再質問

実に、国や県に働きかけていく。

患者の立場としては、一刻も早く搬送して頂きたいと考えるのは心情である。白河広域圏の病院の受け入れが難しいときには、須賀川、郡山などの医療機関との連携も図っては。

答弁(村長)

搬送に係わる消防署としては、一番安全な方法で速やかにを前提としている。そのためにも一番近い塙厚生病院で対処をして頂き、処置が出来ない患者の時には白河の病院に搬送している。病院の受け入れの一つの原因として医師不足があり、医師確保のために努力している所である。

問 ※シエアハウスの設置の考えは

答 今後検討していく

質問

高齢者の増加に伴い防犯、防災、孤独死など様々な問題が危惧される中で、安心、安全、そして離れて暮らす子供たちの心配を軽減するために、高齢者が集団で生活できる、シエアハウスの設置の考えを伺う。

答弁(村長)

現在、村ではひとり暮らしの高齢者の安全、安心を守るため、有料賃貸住宅(居住棟)を



増築が検討される居住棟(ひだまり荘内)

※「シエアハウス」

一つの住宅を複数の人と共用し、生活する居住形態。



関根 政雄 議員

観光開発

問

鹿角平の整備、フロカンコースの
有効活用を推進せよ

答

草原の景観を守り、観光スポーツ
エリアの活用を検討する

質問

鹿角平の観光客やスポーツ施設利用者の増加を図るために、計画的な施設整備と誘客戦略をすべきではないか。またフロカンコースの利用者増加への営業の強化、廃校利用の合宿所の整備も推進すべき。

答弁(村長)

スポーツエリア基本構想を策定し、全天候型陸上競技場や宿泊施設を検討したが、見合わせている。



施設整備が待たれる鹿角平管理棟

施設はトイレ、シャ

ワー室、調理場、バーベキュー施設、食堂と売店を備えた管理棟の整備の他に、国道289号バイパスからのアクセス道路の整備を考えている。

フロカンの利用者増加に向けた営業の強化は予定していない。合宿所の廃校利用は関係者を交えて検討する。

産業の担い手育成と奨学金制度の特例見直しを

基金を枯渇させないで継続するために検討する

質問

各産業の担い手育成への将来的な施策について伺う。また本村の奨学金貸与制度は、農業後継者や医療福祉従事者への償還免除特例がある。この特例について商工業後継者への該当枠を拡大すべきではないか。

答弁(村長)

担い手育成は大きな課題であり、高校生通学支援金支給も担い手支援のひとつ。

奨学金償還免除の拡大は制度の破壊につながる。現行のままとしたい。ただし、財政の維持だけで後継者の育成を放っていないのかと考える。もう少し検討させていただきたい。

答弁(教育長)

償還減免奨学金制度は財政負担が発生することとなる。償還猶予者と奨学生の数の推移に主眼をおき、継続的に実施するかを十分議論を重ねる。

小規模災害箇所への対応策を示せ

二次災害が起きないためにも検討する

質問

台風や豪雨による河川敷や農地の崩落など、災害が多発している。この災害地は規模に応じて補助要件が変わる。また小規模の災害箇所は補助がないとされ、放置されている箇所は村内に数多く見受けられる。

答弁(村長)

今年度の維持補修工事は予算が500万円、37箇所であり、これらの災害箇所への対応策について伺う。

優先順位をつけて施工する。

農地災害で不採択となった箇所及び現状は数が多く把握していない。現地調査において、農家の方には不採択と負担金もありますと、丁寧にお断りしている。

再質問

小規模災害は箇所を集めて工事発注はできないのか。また行政区長は各災害箇所を把握し、村に報告をしているが、災害箇所の対処の経過を区長に伝えているのか。

答弁(農林商工課長)

その結果については区長に伝えている。

答弁(村長)

小規模災害地の集約発注も念頭におき、今後は区長への連絡を密にする。

次のページは

一般質問

遠藤貴人議員・前田武久議員

県立修明高校鮫川校の 未来を見据えた働きかけを

様々な機会を通じて、鮫川校の
役割や貢献度に理解を求めていく

遠藤 貴人 議員



伸び伸びとした高校生活が送れる鮫川校

質問

地域の高校教育に多大な恩恵をもたらしてきた修明高校鮫川校だが、近年の少子化を受け、志願者が減少傾向にある。経費削減、教育環境維持のため、公立高校は全国的に再編が進んでいる。鮫川校は交通網の発達してい

ない本村において、通学負担が少なく、小規模校ならではの伸び伸びとした高校生活を送れる役割がある。これからの鮫川校の存在意義や役割、数年後の未来を見据えた関係各所への働きかけなどを伺う。

答弁(教育長)

福島県教育委員会が本年5月に策定した「過疎・中山間地域の学習機会の確保における改革基本計画」において、従来の募集定員の2分の1以下の状態が3年間続いた場合、原則として募集停止とした基準が見直され、新たな分校は設置しない。また、現在設置している分校においても存続について検討すると示された。しかし、修明高校鮫川校は地域の核であり、地域に根差した学校存続のため、平成28年度から実施している村外生徒通学支援金制度を広く発信すること、村外からの生徒を多く呼び込むとともに、これからについては今まで以上に様々な機会を通じて、鮫川校の現状や役割などに理解を求めていく。

再質問

本村の医師不足に關しては県立医大へ要望活動を行い、道路整備事業も県への要望活動

を行なっているのであれば、教育関係の要望活動を福島県教育委員会に行うことが必要では。

答弁(教育長)

鮫川校では、非常に和やかな雰囲気です。授業を行なっている。小さな学校がゆえに、先生と子どもたちの関係が非常に良い。

再質問

鮫川校の役割が鮫川だけにとどまらず、県南地方に広く及んでいる。県立高校であり、村の直接関与は出来ないながらも、その役割を訴えていく必要がある。

答弁(教育長)

様々な教育関係者から情報を得ている。決して、一方的に統廃合をするつもりはないとのこと。地元と協議をした結果、実施できることは実施することである。

教育委員会としての要望は、県に提出して

いるが、義務教育の内容がほとんどで、高校に關しては管轄外なので要望していない。

再質問

教育長の人脈を最大限に活かし、鮫川校の教育環境を良い方向に進めて欲しい。

答弁(教育長)

商工業も農業も行政も、地域みんなで地元の教育について考えたい。本村で行われている「村民」そして子供の教育を考える会も、そういうものが話題になればいいと考えているが、なかなか盛り上がりがない。今年度も予定されているので、地域の将来や教育問題については、皆さんで話し合いたい。



前田 武久 議員

生活環境

問 環境保全活動事業の創設を

答 条例化を図り、村単独の事業で取り組んでみたい

質問

本村では過疎化や住民の高齢化、農業の担い手の減少などにより地域集落の荒廃が進んでおり、対策が急務と考えられる。

そこで生活道、河川、排水路などの草刈りや清掃、宅地の未利用地の荒廃阻止、歴史的遺産や自然環境の保全整備作業に取り組んだ自治会、集落などの人員に対し、作業の延べ時間に応じて補助金を支給する「環境保全活動事業」などを創設することについて村長の所信を伺いたい。

答弁(村長)

現在中山間地域等直接支払制度を活用し、生活道、集落道、河川また国、県道、村道筋排水路等の管理については、シルバー人材センターに委託し、草刈りや不法投棄廃棄物を回収している。

さらに一斉清掃やワリーンアップ作業により景観が保たれている。議員質問の、地域集

落の共同作業の継続が困難な地区が増えていることから、平成36年度を目途に鮫川村環境公社設立を考えたい。担い手が高齢化した世帯の農地の管理等や、山林の荒廃を防ぎ、農村環境の循環を推進する考えである。

再質問

自然保護や環境保全などの事業の役割は、自治体が行うのか、住民がおこなうのか。村長、即答出来ると思うが如何か。

答弁(村長)

今までだと地域の方々に守っていただいていた。村で補助金を出しているのは真坂、墓地石、遠ヶ竜、江竜田で

それぞれ地域の宝物である。遺跡に対しては申し訳ないが、中山間地域等支払金制度の中で活用されているのが現状である。

再質問

村長は従来通り、地域で取り組んでもらおうという考えが強いようであるが、本来ならば自治体を実施すべき役割である。

しかし住民から数多くの要望事項に迅速に対応できないのが現状である。

そこで地域に密着した住民にそれらの事業を依頼してはどうか。36年度に環境公社設立後対応するとの答弁であるが、現状から見ると、地域住民に支援策を講じ、積極的にきめ細かな活動をしていただき、荒廃しがかつていた居住環境を守っていくべきと思う。

さらに中山間等支払い事業だけでは限度がある。支援策を講じる施策、最終的には条例制定を望むが、村長は

公社設立により対応策を図る考えだけなのか、最善策があれば伺いたい。

答弁(村長)

この答弁書を見た時、質問者に36年度まで待つべきか、担当職員に相談した。平成12年に始まった中山間直接支払い制度で一時元気が出たが今はこれで農村景観が守れるか、本当に厳しくなっている。

議員から提案された時に環境保全活動を条例制定し、もう一度集落の方々が元気と共同意識を高めるためにも、区長会に諮らせてもらい各地域の要望を受け、その時点で皆さんに相談しながら提案が実現化できるように努力し、鮫川の元気復活を期したい。



環境保全を維持する国道筋の除草作業

◀ 次のページは

議員視察研修・長野県下條村

健全財政による地域振興

7月5日、6日の2日間「奇跡の村」と呼ばれる、長野県下條村へ行政視察研修に伺いました。お金を使うよりも、頭を使う。お金を出すよりも、精を出す。お金をかけるよりも、手間をかける。下條村は、公共事業を住民の手を借りて実施しながら財政を改善。高校生までの医療費を無料にしたり、出産や入学のお祝いを出すなど、地域全体で、未来への投資を行っていました。日本の田舎によくある過疎地が、奇跡の村として注目されている理由を学びました。

住民参加による公共事業費削減



村が作業に必要な資材や重機の燃料代を支給し、日常生活に密着した生活道路の舗装など軽易な土木作業を、住民自らの手で実施。自助や相互扶助の精神を養い、住民同士が親睦と交流を深めている。

視 察 研 修

暮らしやすい住環境と

村営住宅(若者定住促進住宅)

奇跡の村
「下條村」



十分な広さの2LDKのマンションを、格安で提供。同世代の入居者が多く、村内の各地に定住した後も、家族ぐるみで親しく交流が続けられます。

定住促進のための各種支援制度

定住住宅用地取得等補助金

45歳以下で村内に定住するために住宅用地の購入・造成を行う方に購入・造成費用の2分の1を補助。

住宅リフォーム等補助事業

村内の施工業者及び村内に事業所等をおく施工業者でリフォームを行う際に費用の4分の1を補助。

定住促進住宅新增改築等補助金

45歳以下で村内に定住するために住宅を新增改築される方、中古住宅を購入される方に建築費用等の10分の1を補助。

移住奨励支度金

村内に5年以上の居住と、村内や近郊の市町村に勤務する家族がおり、今後永住の意思を持っている世帯に対して、20万円の移住支度金を交付。

追跡!

第10弾

過去の一般質問が行政に反映されているか、その経過を検証します。

どうなったっぺ? あの一般質問

【青生野牧野のメガソーラー設置】

質問・提言

以前から取り組んでいる青生野へのメガソーラー設置に向けた経過と村の支援策は。

平成29年 12月議会

答 弁

農地法の要件を満たし、地権者の同意が前提である。村としても皆さんの総意に沿って協力していきたい。

経過及び結果

事業者が決まり、村では委員会を立ち上げて検討中。



すでに設置されている村内の太陽光発電

【メガソーラーとは】大規模な太陽光発電で出力が1000キロワット以上のものをメガソーラーといいます。一般的な太陽光パネルは1枚が250ワットであり、1メガワット＝1000キロワット＝100万ワットとなり、メガソーラーは太陽光パネルが4000枚以上の規模のものとされています。

【旧湯ノ田温泉の利活用】

質問・提言

旧湯ノ田温泉の利活用策によっては、雇用の拡大に繋がるのではと考えるが今後どのように進めるのか。

平成29年 12月議会

答 弁

利活用については検討委員会を立ち上げ意見を集約し、これらの意見を施策に活かすが、まずは環境整備から進めたい。

経過及び結果

現在周辺の針葉樹が伐採され、今後の環境整備を含めた施策が期待される。



環境整備が期待される旧湯ノ田温泉

※定例議会での「一般質問」は議員の「政策提言」や、「村民の皆様の声」を村政に反映できる唯一の場となります。質問された「政策提言がどのように検討されているか」を根強く検証していく事としています。

村民の広場

私の夢シリーズ ⑬

石井 翔大さん (鮫川中3年生)

がんばれ!!
村の担い手

感謝の気持ちを忘れずに



(赤坂西野字酒垂)

- 洋平さん、弘美さんの長男
- 鮫川中学校野球部・県南地区の選抜チーム[全南クラブ(第15期生)]でプレーしている

私の夢は、2つあります。

1つ目は、小学生からの夢であるプロ野球選手になることです。そのためには、小学生から続けているランニングと素振りを毎日継続して行い、目標の高校へ進学して必ずレギュラーをとって甲子園に行きます。自分の持ち味であるバッティングを生かして甲子園でホームランを打って活躍し、プロ野球選手になります。野球を通じて学んだあいさつや礼儀、感謝の気持ちを大切に、これからも人間性を磨いて、人として、選手として子供達に夢を与える選手になりたいです。

2つ目は、地域に貢献する公務員になることです。そのためには、学校の授業を大切にして受験勉強をがんばり、苦手な英語と国語を克服して目標の高校・大学へ進学します。そして日々の学校生活や先生方への感謝の気持ちを忘れずに、文武両道を達成して夢を実現したいです。将来、育ててくれた鮫川村や地域のみなさんに貢献する立派な公務員になりたいです。

ゆうきくん
からの
お願い

議会傍聴に
来てくんちナイ!
9月定例議会は
9月中旬の予定です。



栄 誉
ある 受賞

福島県町村議会の総会の席上、11年以上在職特別功労者として本議会から星一彌議長、宗田雅之副議長、前田雅秀議員が表彰されました。



宗田雅之副議長、星一彌議長、前田雅秀議員

ふるさと鮫川への想い シリーズ②



なか い ひろ のり
中井 弘徳 さん

(東野字広畑出身) 東京都豊島区在住

◆ プロフィール

【生年月日】昭和37年1月19日生まれ

安積高校卒業

日本歯科大卒業

平成 2 年 なかい歯科医院開院

平成17年 なかいみほ

デンタルクリニック開院

平成 5 年～ 東大病院

口腔顎顔面外科登録診療医

(現在に至る)

【家 族】妻(歯科医師)
長女(医師)
次女(OL)

みなさん！ よってがっしょ鮫川へ

ここ数年、父母が病気がちとなり入退院を繰り返すようになりました。そのために一か月に1、2回は、鮫川村に帰っております。

鮫川小学校を卒業後、郡山市に下宿をしながら中学校通学をして以来およそ40年以上の月日が経っていますが、このぐらいい頻繁に帰郷したことは記憶にありません。

いつの間にか世間では「アラ還」と呼ばれる年になってしまい、まさに「光陰矢の如し」という言葉がピッタリです。英語では「Time flies」本当に飛ぶように過ぎ去った感です。この言葉には、無為に送るべきではないという戒めがあるそうですが、かえりみると反省の念しきりであります。

鮫川村は駒込の自宅から往復5時間以上はかかりますので、日頃3か所

で診療している身にとりましては、かなりのロスタイムです。しかしここで過ごす時間は、最高のストレス解消になります。実家の片付けをした後ちよつと一息つくくと、小鳥のさえずり、山野の息吹、ゆったりと流れる時間を感じながら、子供の頃体験したアケビ採り・山栗拾い・木苺や桑の実摘みなどに想いを馳せる事ができます。どんなに美味しい料理やワインを愉しむよりもとても心のリラクゼーションになります。皆様も鮫川にもっと寄ってみませんか。ふるさと鮫川村がずっとずっと変わらないことを願いつつ、両親がいつもお世話になっていた方々と寄稿の機会を与えてくださった関係諸氏に心より感謝申し上げます。

ご寄稿をお待ちします

さめがわ村みんなの議会だよりは、紙面づくりに「村民の皆様参加」をテーマとし、身近な議会だよりづくりに努めています。また「村外にて活躍されている村出身の方々」より原稿を寄せて頂いています。ご家族やご親戚、同級生など、原稿をお寄せ頂く方をご紹介下さい。また議会だよりへのご感想やご意見もお寄せ下さい。

【議会事務局】

0247(49)3115まで

編集後記

長野県最南端に位置する下條村の人口は、約4100人。飯田市から車で30分ほどだが、その飯田市まで新宿から高速バスで4時間30分かかると。村役場の職員が「ここは陸の孤島です」と、自嘲気味に語った。

日本の山奥に出現した「奇跡の村」は、住民の総力によってつくり上げられたものであった。背景に特別な施策があったわけではない。卓越した村民力こそが「奇跡の鍵」だと気付きを得た。

(広報編集委員)